ことばの祭典2024
小学生 WEB 俳句　優秀句

令和6年(2024年)
宝塚市教育委員会

■「ことばの祭典俳句の部」で昨年度から始めた小学生WEB俳句の優秀句を紹介します。今年は12小学校から 419 名、707句の作品が届きました。昨年の倍増です。取り組んでくださった皆さん、ありがとうございました。その中から、優秀句を 27句選び、さらに大賞、準大賞を選びました。選評とともにどうぞお楽しみください。

【大　賞】

夏の朝プリントえんぴつやる気ない　　光明小学校5年　紀野　凛佳　さん

夏休みの朝、さあ宿題を片づけよう。プリントも鉛筆も用意したけど。さて、やる気がないのは自分でしょうか、それともプリントや鉛筆でしょうか。読み方が二通りありますが、いずれにしても勉
強に気が向かない自分の姿をユーモラスに描けているのがすてきです。

【準大賞】

太陽の真下で食べるかき氷　　末広小学校6年　BARAL　AVIN　さん

なんといっても「真下で」という言葉を選んだのがすばらしい。太陽をでっかく感じて、その真下で食べるかき氷だから、特別においしい。難しい言葉は使っていないのにとてもスケールの大きな句。「㋟いようの㋝し㋟で㋟べる㋕きごおり」と、「ア」の音の連続がそれにひと役買っています。

【準大賞】

一学期使ってた鉛筆６センチ　　安倉小学校5年　田畑　祐都　さん

夏休みになって、ふでばこを整理してみた。四月の初めに買った鉛筆がとても短くなっている。ためしに測ってみたら、６センチ。この長さは、私の努力の証(あか)しなのかな。そんなまっすぐな気持ちを想像させてくれる一句です。一学期にがんばった自分をほめてあげましょう。６センチという具体的な数字を使ったことで印象に残る俳句になっています。

【準大賞】

夏の空一回勝負のピアノの音　　長尾小学校6年　乾　瑞穂　さん

夏にピアノのコンクールがあったのでしょうか。「一回勝負」という言葉から、ミスタッチは許されないという、ただならぬ緊張感が伝わってきます。最初の第一音がピーンとまっすぐに夏の空に向かって響いているような、そんな映像と音を想像しました。

【優秀句】

あめがふりはねをやすめるとんぼたち　長尾小学校2年　荻野　廉太朗　さん

ずっと飛び続けているトンボ。雨がふった時だけ、羽を休めるために葉の上にとまっている。虫への愛情が伝わる細かな観察とやさしい言葉がすてきです。

十五夜の夜にねむれぬお月様　西谷小学校4年　神代　沙絵　さん

美しい十五夜のお月様。でもお月様自身は、夜も眠らずに私たちにあかりを届けてくれる。自分はその美しさも見られないのに。お月様の立場に立って十五夜を歌うというとてもユニークな一句です。

歩いてた栗が頭に落ちてきた　安倉小学校6年　綿巻　勇輝　さん

「道を歩いていた。すると、頭の上に栗が落ちてきた。イガがチクッと痛かった。ああ、でも秋が来たんだなあ。」なにげない、日常のひとこまをかざることなく、見たままをよむのが俳句は大切。自分の気持ちは言わないでも読む人が想像してくれます。それが俳句の基本。

春の夜一人寂しくやわらかい　美座小学校6年　小山　千花　さん

春の夜がやわらかい？一人寂しいのは私のこと？夜のこと？いっぱい「ふしぎ」がつまったこの俳句は抽象画(ちゅうしょうが)を見ているような気持ちになります。「抽象画」とは何かは調べましょう。

水の音ぴしゃぴしゃあはは！塩の味　光明小学校5年　吉川　雪音　さん

水をかけあう「ぴしゃぴしゃ」。「あはは！」とはしゃぐようす。二つのオノマトペ(擬態語、擬音語)が並ぶことで夏の遊びの楽しさが伝わります。そしてしょっぱそうな顔も思い浮かぶオチもついています。

科学館ぼくにもできたかんでんち　光明小学校4年　小松　應介　さん

科学館で電池の仕組みを学んで自分でも作ってみた。うまくできた喜びがとてもすなおに表現できていて読む人にまっすぐ伝わってきます。季語はありませんが、まずこういう生活の中から作ってみるのはいいことですね。

さつまいも弟と半分仲直り　光明小学校5年　河口　結愛　さん

けんかばっかりしているきょうだいだけど、ちゃんとサツマイモを半分こして仲直りができる。すてきだなあ。けんかするほど仲がいいんですよね。サツマイモはケーキとかよりも「ほっこり」した感じがあって、仲直りにぴったり。

はだざむいぼうしをかぶるどんぐりは　末広小学校3年　上地　結喜　さん

どんぐりのあの形は、寒いからかぶっている帽子だったんだ。寒いのにもかかわらず、どんぐりがにこにこ笑っているようすが思いうかびます。

夏の風いつもと少しちがうかな　末広小学校6年　長瀬　美緒奈　さん

「いつもとちがう」と感じたのは、どんな感じなのか、想像したくなる句。自分自身の成長とか心の変化があったのかな。夏の風をからだいっぱいに受けて、空を見上げている姿から、あなたはどんなちがいを感じますか。

かき氷食べれば全て同じ味　　末広小学校6年　後藤　壮介　さん

はやりの豪華なかき氷（値段も高すぎ!）ではなくて「メロン」「いちご」「レモン」といった氷ですね。たしかに色は違っても全部同じ味。でも想像力でくだものの味にしちゃいましょう。だれもが感じる「あるある俳句」。

試験前　険しい顔に　にじむ汗　　末広小学校6年　十河　咲希　さん

眉間（みけん）にしわを寄せて、机に顔がひっつくぐらい近づけてにらんでいる顔がうかびます。テストにむけて、真剣に向かうようすがひしひしと伝わってくる一句。「汗」は夏の季語です。

まぶしい日ばしゃと自分に水かかる　　末広小学校6年　坂本　唯　さん

太陽の光がまぶしくて上を見上げたら、「ばしゃ」と水をかけられた。たくさんの友だちと水遊びをした楽しい夏のようすでしょうか。「ばしゃ」のオノマトペが効果的。

なつやすみがりがりくんをたべすぎた　　丸橋小学校6年　植村　悠葵　さん

日本中のほとんどの人が共感してくれそうな一句。ガリガリくんは、ねだんもやさしいし、あの固さは長い時間楽しませてくれるし、いろんな味があるし、もう最高。食べすぎたけど決して後悔（こうかい）はない。

超高速低空飛行する球　　安倉北小学校5年　長谷川　凌大　さん

五七五にするために「球」は「ボール」と読むのがいいかな。超高速低空飛行ということはドッヂボールの名手でもいるのでしょうか。うなるようなボールが飛んでくる様子が、連続する漢字から伝わります。「俳句を作ろう」という時にこんな場面と言葉を引っ張り出せた感性がすてき。

ぶらんこに乗れば空でも飛べそうだ　　すみれガ丘小学校6年　北沢　海　さん

「ぶらんこ」は自分が大きな空とつながっていて「このまま空を飛べるかな」と、スィングしながら想像をたくましくさせてくれる魅力的な遊具。ぶらんこをこぐ気持ちを素直に表現してくれました。「ぶらんこ」は春の季語。

夏の声少なくなって静かな日　　すみれガ丘小学校6年　佐々木　南　さん

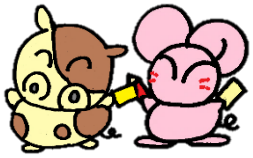
夏休みが始まったころは、公園からにぎやかな声が響いていた。でも、そんな声も少なくなってきた。ああ、夏が終わるんだ。日常の小さな発見から生まれた素敵な俳句です。

桜散るいつもみんなを置き去りに　　中山台小学校6年　松本　悠愛　さん

桜は、咲きほこる時間が短いからこそ愛される。もう少し咲いていてほしいのにいつもそんな気持ちを置き去りにしてしまう。桜の持つ「さびしさ」を「置き去り」という言葉で見事に表現。

肝試し　人体模型　動いてる　　中山台小学校6年　安藤　蒼汰　さん

たしかに人体模型は動いています。さっきはそんなポーズじゃなかった。いや、骨だけの顔が笑っている気もする。なんなら夜中になると走り出すというではないか。肝試しのこわさを「動いてる」だけで表現しきったセンスが秀逸。



夏休み日傘片手に遊園地　　中山台小学校6年　田中　彩菜　さん

あまりの暑さにせっかくの遊園地も日傘が手ばなせない。それでもせっかくの遊園地。思い切り楽しみたい。ここ数年の酷暑を素材にしながら小学生の気持ちをうまく表現してくれました。

春が来た　ノート沢山　名前書く　　中山台小学校6年　久米　優菜　さん

新年度の始まり、新しいノートをたくさん用意した。心をこめて、ていねいに名前を書いていく。進級した緊張とやる気が伝わってきます。「がんばるぞ」とは言っていないのにちゃんと伝わるのが俳句のおもしろさですね。

君影草すずしくゆれる夏の花　　中山台小学校6年　坂上　結菜　さん

君影草は「すずらん」の別名。すずらんは 5 月ごろに咲くそうですが、俳句の世界では 5 月は夏の季語です。作者はいろんな植物を題材に俳句を作ってくれました。風を感じる俳句。

見上げれば青く遠くに虹の橋　　中山台小学校6年　チャーンチャムニ　真星さん

「青く」みえているのは「虹の橋」という名前の橋？それともやっぱり空に浮かぶ虹？作者の想いと読む側の想像は違ってもいいでしょう。いずれにしても「青」を基調にした風景がとても美しい一句。

かれた木が生まれ変わってはえてくる　　中山台小学校6年　黒住　樹　さん

木を素材にした俳句ですが、ひとの命も想像させるスケールの大きな句です。輪廻転生（りんねてんしょう）とか、祖先から脈々とつなぐ命について思いをはせているのでしょうか。枯れたと思ってもそれは終わりではなく、そこから新しい芽がいぶくのです。

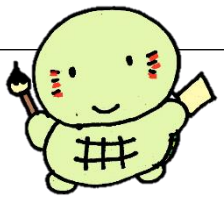
昨年から始めた「小学生 WEB 俳句」ですが、今年は投句数が倍以上に増えたおかげで、バラエティに富んだ作品がいっきに増えた感じがします。

大賞、準大賞、優秀賞を決めました。しかし、読む人によって、それはずいぶんと違うものになるでしょうし、そうなることが面白いのです。走り競争なら、タイムで勝敗がはっきり決まってしまい、苦手な人には決して楽しいものではありません。しかし、俳句は作った人でさえ思いがけずほめてもらえる、おもしろがってもらえる可能性がいっぱいあります。そこがいいのです。

おもしろい俳句だなあと思える要素はいっぱいあります。「声に出して読むとなんだか楽しい」「風景や動きが目に見えるようだ」「この人、暮らしを（言葉遊びを）楽しんでいるな」そんな気持ちにさせてくれた俳句を選ぶようにしています。

今回、紹介した俳句は、どの俳句もそんな要素があります。すてきな言葉をありがとうございました。

この俳句だよりを読んでくださったら、次はクラスや仲間で「句会」をしてみてください。そして、友だちどうしでつくった俳句のおもしろいところを見つけあってみましょう。

俳句はとても短いので、きっと「言いたいことは言い切れない」はず。逆に、言いたいことを言ってはいけないのが俳句です。その作品から何を受け取るかは、読む人に半分残しておくのがよい俳句。「つくる半分、よむ半分」。作者の気持ちを思いやって読みあう。言葉の足りないことをみんながおぎないあうのが「句会」です。

俳句をつくったり、読んだりすれば、きっと見える風景が違ってきます。人の言葉も違って聞こえます。そして、あなたの胸がすかっと広くなります。今回投句できなかった方も次はぜひ参加してくださることを願っています。